

信陽	一二三	六五	五	七二
應山	一〇〇	六八	一	一、五一六
應城	八八	二六	三	一一一
長江埠	四七	一三	一	三六
安陸	一五	七二	一	
孝感	二九	六一	一	
宜昌	一四一	一三二	一	八、三〇三
當陽	四四	一三三	一	一〇九
河浴鎮	一一	六〇	一	四八
龍泉舖	一	五八	一	四八
黃陂	三五	三七	九	四四
沙市	五五	三〇	一	三五
天門	三八	二八	一	六五
石灰窑	九五六	四一	一	七四
大冶	三〇	二一	一	二二
陽新	二七	三八	四	二二
鐵山舖	二二一	一四	一	九七
武昌	一、一七〇	二三七	一	二七
咸寧	六九	三三	一	九三
趙李橋	四五	一一	一	四四
蒲折	一〇六	九二	一	七三
羊樓洞	五〇	二六	一	一一
大沙坪	四一	五四	一	二二
岳州	一七二	六一	一	三九
臨湘	五五	三一	一	二二
廈門	一、六六四	七四	一	三三
鼓浪嶼	一二六	一	一	四
				七、五二六
				五四四
澳門	二〇	一	一	二八
香港	三八七	二	一	一三一
汕頭	八九一	三二	一	
潮州	四七	二四	一	
蕪埠	一三	一四	一	
廣東	八、三〇三	三九八	一	
黃埔	一〇九	一二	一	
西村	四八	八	一	
佛山	一二四	三三	一	
增城	四四	一	一	
沙頭鄉	六五	一九	一	
石岐	七四	七〇	一	
三水	二二	四	一	
寶安	一一一	一三	一	
琛圳	九七	二七	一	
海口	一、〇八一	九三	一	
瓊山	一二九	四四	一	
儋州	六六	三三	一	
陵水	二九	一一	一	
崖東	八一〇	三九	一	
瓊東	三七	一	一	
感恩	七一	二〇	一	

### 外務省調査部の昭和十四年度在外本邦人人口調の發表

外務省調査部に於ては毎年十月一日現在を以て調査せらるゝ在外帝國領事館の報告(註1)に基き、「海外各地在留本邦人人口表」並に「海外各地在留本邦内地人職業別人口表」を刊行してゐるが、最近發表になる昭和十四年度(註2)の集計より其の主要數字を再録すれば以下の如くである。

(註1) 關東州及び南洋委任統治地域に就ては關東州廳並に南洋廳の定期報告に依り、滿洲國に就ては滿洲國治安部警務司刊行の「滿洲帝國現住戸口統計」に依る。

(註2) ソ聯邦中、在ブラゴウエスチエンスク、在ノヴォシビルスク及び在歐露、在オデッサ各領事館、並に中華民國中、在成都、在福州の各總領事館及び在沙市、在宜昌、在長沙、在沙頭、在重慶、在鄭州、在雲南の各領事館分は調査當時一時引揚げに付き全然計上せられ居らず。又、南洋委任統治地域並に蘭印中の在スラバヤ領事館及び在ポーランド、在和蘭及び在ハンガリー各公使館分は報告未着の爲昭和十三年度分が計上せられてゐる。

昭和十四年十月一日現在に於ける在外本邦人總數(關東州及び南洋委任統治地域を含む、但し滿洲國の分を含まず)は約百十二萬五千人その對前年増は約十二萬六千人で、その民籍別内譯は次の如くである。

總數	對前年增人
內地人	一、二四六四九
朝鮮人	一、〇五四〇四
臺灣人	五、六二八四
右の内、朝鮮人は布哇の六千七百餘人、キューバ國の四百人弱及び北米合衆國の三百餘人を除き殆んど凡て中華民國に在住するもので、なほ中華民國在住の朝鮮人に關しては相當多數の調査漏れ乃至調査不能者がある見込となつてゐる。又、ソ聯極東地方在住の朝鮮人についても同様で一九三一年三月沿海州朝鮮人機關誌「先鋒」は總數十九萬四千二百十九人と發表してゐるが、その大多數はソ聯邦の國籍を取得し且つソ聯邦官憲の保護の下に生活してゐるもので帝國公館に對し正規の届出を爲さず適當なる計數を知ることが得ぬといふ。臺灣人は上海、廣東、厦門等の南支方面に約一萬一千五百餘人、南洋方面に約一千餘人在留してゐる。特に在留本邦人數一千人を超ゆる海外諸地方を掲ぐれば次の如くである。	
中華民國	二一六、六四一
ブラジル國	二〇二、二一一
布哇	一五〇、三九九
北米合衆國(本土)	一二三、一一八
比律賓群島	二五、二六九
ペル一國	二一、六五六
英領カナダ	二一、五一一
アルゼンチン國	六、八九三
蘭領東印度	六、四八五
メキシコ國	五、四八一

職業別	人	對前年度増加
總數	七九七、〇五八	一一八、五八三
有業者	二九〇、六四五	七三、八四一
一 農業	八〇、五八八	九七一
二 水産業	八、一四五	二七
三 鑛業	一、七六九	一〇三
四 工業	二六、八四二	六、九五七
總數七十九萬七千餘人中の有業者總數二十九萬六千餘人(過半数は無業者即ち家族となる)中商業最も多く農業之に亞ぐ。各業共孰れも増加の跡を示すも商業關係また最も顯著なり。更に之を在留者數の比較的多數なる主要國(又は地域)別に概觀せる外務省調査部の記述を掲ぐれば次の如くである。		
一、亞細亞		
(イ) 中華民國、英領香港及葡領澳門——同地方に於ける在留邦人數は二十一萬七千二百六十七人にして、昭和十二年度は事變の爲め同地在外公館の一部を引揚げたる爲め計數を得ず其の後漸次治安回復と共に同地に於ける在留内地人も次第に増加し事變後今日迄素晴らしい躍進振りを示したり、中華民國に於ては昭和十四年度には事變前の昭和十一年度と比較するに約四倍弱にして北支に於ては北京天津地方、		

職業別	人	對前年度増加
英領馬來	五、〇四三	
濠洲及新西蘭	一、五五五	
英領北ボルネオ及英國保護サラワク	一、七九九	
英領印度、ビルマ及錫蘭	一、三二六	
英吉利國	一、二八〇	
又、昭和十四年度在外本邦内地人の職業別分布の狀況を見るに、其の總集計は次の如くで、		
(ロ) 英領印度、「ビルマ」及錫蘭——此の地方は在留本邦内地人數は一千三百二十六人にして内「カルカッタ」孟買「カラチ」蘭賣方面に於ては主として棉花の買付又は綿絲布、雜貨等の本邦商品の取扱に従事する本邦商社員にして「ビルマ」及錫蘭地方に在りては小商業、漁業、新聞雜誌記者等比較的多數あり。		
(ハ) 「ソ」聯邦極東地方——同地方に於ける在留者は一千七人にして前年度より五百十七人の減少を示したり、此れは殆んど全部が日「ソ」間の條約に依る石油及石炭等の利權契約關係に基く本邦商社の従事者にして從來屢々本問題を巡り日「ソ」に紛争起し帝國公館も一時引揚げの公館もあるに至り最近「ソ」聯當局の本邦人に對する壓迫はなほだしき爲と目せらる。		
(ニ) 南洋方面の在留内地人數は三萬九千四百六十三人にして前年よりも一千一人の減少にして其の地域別分布を示せば次表の如し。		
總數	三九、四六三	
暹羅國	五七六	
佛領印度支那	二二九	
英領馬來	五、〇四三	
英國保護「サラワク」	一、七九九	
英領北「ボルネオ」		

蘭領東印度 六、四八五  
比律賓群島 二五、二六九  
「ゲアム」島 六二

比島に於ける約半数は同島「ダヴァオ」地方に於て麻の栽培に従事す、その他商業關係者、漁業及商社員、手工業等比較的多し、蘭領東印度の約六千四百餘人、英領馬來の約五千餘人は漁業、「ゴム」、椰子業の栽培關係者、小賣業及錫鑛業關係者を其の主たるものとし、英領北「ボルネオ」在留者の約半数は漁業關係者にして農業及工場勞働者比較的多し。

二、北亞米利加

(イ) 米國本土在留の本邦人は十二萬二千一百十八人にして、加州を中心として太平洋沿岸各地に散在する者其の過半数を占む、此れを職業關係別に見るに野菜耕作、果樹、花卉の栽培を主とする農業者にして、此れに次ぐは商社員並に物品販賣業なり、その他飲食店經營、家庭使用人、日傭勞働者、工場勞働者等比較的多し。

(ロ) 布哇在留本邦人は約十五萬餘人にして前年度よりも八百人の減少を見たり。又其の職業關係に付いて見るに最も多數なるは甘蔗栽培を主としたる農耕關係者なり。又其れに次いで會社員、商店員、日傭勞働者、家庭使用人、土工、左官、石工、ペンキ職、小賣業者等多數算し其の他手工業者、教育並に醫務關係者も亦比較的多數を算す。尙布哇に於ける漁業は殆んど全部が本邦人の獨占の事業と稱せらる。

(ハ) 英領「カナダ」在留本邦人は二萬一千餘人にして其の殆んどが太平洋岸英領「コロンビヤ」州に在り工場勞働者最も多く此れに次いで漁業及農耕並に伐木

勞働に従事するものなり。

三、中南米諸國

中南米諸國に於ては其の在留者數は二十三萬九千七百二十五人にして其の八割四分を占むるは「ブラジル」國にして之に次ぐは「ペルー」國其他「アルゼンチン」國及「メキシコ」國等の順位にして次に各國別在留人分佈狀況を示せば次表の如し。

國	別	人	口
總	數	二三九、七二五	
「メキシコ」國		五、四八一	
「キューバ」國		六六三	
「エル・サルヴァドル」國		七	
「パナマ」國		三五五	
「コロンビア」國		二九四	
「ヴェネズエラ」國		二五	
「ペルー」國		二一、六五六	
「ボリヴァリア」國		七一九	
「チリ」國		七〇八	
「ブラジル」國		二〇二、二一一	
「アルゼンチン」國		六、八九三	
「パラグアイ」國		六二〇	
「ウルグアイ」國		九三	

(イ) 「ブラジル」國——中南米諸國中最も多數の邦人を擁し昭和十四年度に於ては二十萬二千二百十一人にして前年度より二千三百三十一人の増加なり、同國在留者の九割迄は「サンパウロ」州に在留し其の大多數は珈琲園、勞働等の農業に従事するものなり。近年遠く奥地に進出して米、馬鈴薯等の耕作及棉花の栽培等に従事するもの漸次増加の傾向あり。

(ロ) 「ペルー」國——在留内地人總數は二萬一千六百五十六人を數へ其の大多數は首都「リマ」市及其の商港「カイヤオ」等の都市に集中し居れり、都在留者の多數は雜貨食料品の販賣、珈琲店、料理店、理髮店等の小營業に従事するもの、家庭勞働に従事するものも多く工場勞働者も比較的多し、其の他本邦商社の支店員及派遣員として駐在するもの中南米諸國を通じて最も多し。又米、棉花、甘蔗栽培を主としたる農業に従事する者海岸地帯に多數算す。

(ハ) 「アルゼンチン」國——在留内地人總數は六千八百九十三人にして中南米中第三位なり、又同國在留者の過半数は首都「ブエノスアイレス」市に集中し其の職業を見るに小規模なる營業多く、洗濯業に従事する者最も多く、其の他農業、珈琲店、料理店、工場勞働者、家庭勞働に従事する者も比較的多數を算す、尙近年に於て邦品の海外進出と之が新市場開拓の爲め本邦商社派遣の支店又は出張員も比較的多し。

(ニ) 其他の諸國——前記以外の中南米諸國在留邦人は小規模なる雜貨販賣、飲食店經營等の小營業に従事する者、農耕に従事する者等其の大部分を占む、其の合計三千四百八十四人なり。

四、濠洲地方

在留内地人の總數は一千五百五十五人にして之を地方別に見るに、濠洲の約一千三百餘人、西濠洲の約二百餘人、北濠洲の約七百餘人、南濠洲の約三百餘人、此れに次いで「ニューカレドニア」島の百三十九人、新西蘭の三十六人なり。其の職業別に於ては濠洲在留者は木曜島方面の眞珠採取業關係者多く、「クインラン」D「洲の漁業、製鹽業、勞働者、西濠洲の船舶從業者等





在外本邦内地人洲別及職業別人口 (昭和十四年十月一日現在)

洲別	職業別	總數	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
			農業	水産業	鑛業	工業	商業	交通業	公務	家事	其他の	無業
總數		1,084,404	497,508	133,036	52,377	76,433	142,004	50,910	64,905	159,696	322,888	555,390
亞細亞洲		445,336	311,888	48,633	31,597	57,733	107,579	46,008	57,330	64,088	101,333	133,388
北亞米利加洲		343,038	201,100	43,996	33,600	97,755	210,050	26,993	42,777	76,333	72,110	203,938
南亞米利加洲		339,733	54,888	3,778	20	3,176	8,893	49,900	1,093	710	2,966	185,381
大洋洲		72,696	11,077	3,788	1,732	6,266	5,888	1,560	2,607	1,095	4,561	31,696
歐羅巴洲		110,111	1,122	—	—	—	—	—	—	—	—	1,104
阿弗利加洲		334	102	3	4	2	6	3	3	9	—	108

(備考) 亞細亞洲には關東州を、北亞米利加洲には布哇を、南亞米利加洲には、メキシコ、國「エル、サルヴァドル」國「キューバ」國及「パナマ」國を、大洋洲には南洋委任統治地域を含む。

在外本邦内地人職業別人口累年比較 (昭和五年度—同十四年度)

職業別	年度	昭和十四年度	昭和十三年度	昭和十二年度	昭和十一年度	昭和十年度	昭和九年度	昭和八年度	昭和七年度	昭和五年度
總數		1,084,404	1,131,158	1,279,996	1,310,117	1,146,462	1,058,338	918,177	835,100	753,317
對前年增加數		—	—	—	—	—	—	—	—	—
1 農業		497,508	487,936	560,968	569,333	509,969	458,943	413,100	373,736	454,398
2 水産業		133,036	133,665	104,134	100,333	100,853	98,354	94,196	86,491	118,621
3 鑛業		52,377	52,333	8,335	7,733	6,733	5,826	3,126	3,423	89,038
4 工業		76,433	110,527	77,668	74,555	78,377	63,719	60,226	58,329	150,081
5 商業		142,004	156,738	148,393	138,532	130,531	116,182	102,692	94,331	150,081
6 交通業		50,910	67,066	64,010	62,447	60,238	47,974	42,962	36,131	70,498
7 公務		64,905	124,198	93,756	82,350	73,022	67,280	60,410	53,385	70,498
8 家事		159,696	227,000	193,234	200,000	185,338	161,156	171,066	184,191	261,700
9 其他の有業者		322,888	507,334	309,937	300,858	300,468	332,484	222,248	132,336	261,700
10 無業 (主として家族)		555,390	733,033	718,528	690,794	636,496	599,385	506,077	451,374	298,819

(備考) 各年十月一日現在數、關東州南洋委任統治地域を含む。

昭和五年度分には内地人(七四〇、〇七四)、朝鮮人(三、七五一)及臺灣人(八、六九二)を含む。

(補註) 昭和十四年度分には滿洲國の分を加算せず、但し對前年增加數の計算には前年度の在滿洲國內地人數(四九二、九四七)を加算せられあり「人口問題研究所補註」。

在外本邦内地人主要地域別人人口累年比較 (明治三十七年度—昭和十四年度)

年度	國別	總數	關東州	南洋委任統治地域	海外各地	「ソ」聯邦極東地方	滿洲國	中華民國	比律賓	群島米領	北米合衆國	本土	布哇	英領	カナダ	領	ブラジ	ベル	國
明治三十七年		二二八,五九一	—	—	一三八,五九一	—	—	八,五五〇	二,六五二	四八,三五四	六五,〇〇八	—	—	三,八三八	—	—	—	—	—
四十二年		二二八,六七六	五五,四八七	—	三三三,一八九	—	三,四七〇	一六,六〇七	二,一五六	七,〇七九	六五,七六〇	—	—	八,八五〇	—	—	—	—	—
大正三年		一五八,七二一	四八,九〇九	—	一〇九,八〇三	—	四,五六三	五,一五五	五,二九八	八〇,七五五	九〇,八〇八	—	—	一,一九五九	—	—	—	—	—
八年		一五三,九一三	五六,〇二八	—	一〇七,八八五	—	七,五三四	五,九一〇	九,七九八	二五,一九五	一四,二八三	—	—	一,六六五〇	—	—	—	—	—
九年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
十年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
十一年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
十二年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
十三年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
十四年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
十五年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
昭和二年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
三年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
四年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
五年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
六年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
七年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
八年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
九年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
十年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
十一年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
十二年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
十三年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
十四年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—
十五年		一五〇,七九一	六九,〇八〇	—	一〇一,七一〇	—	八,三三五	五,四五四	九,三三七	二五,三三五	一〇,八一九	—	—	一,七六八八	—	—	—	—	—

(備考) 大正十三年度分迄は各六月末現在、同十四年以降は十月一日現在。